

開宿400年のこの年を祝って
宿場町の風情とともに
富谷茶の香りを楽しみました。

10/24(土)・25(日)
富谷茶と宿場町を楽しむ会
のレポートです。



昭和47年当時
殿上氣仙屋の茶畑

400年前に開宿したしんまち。皆さんが思い浮かべる「宿場町」の風景ってどんなものですか。それって行きかう旅人のイメージだったり、休憩する茶屋の風景だったりしませんか。その時、大切になるのは、お茶。お茶は単なる産品ではなく、「宿場町」という交流の場の象徴だったのです。

10月24日(土)・25日(日)、富谷茶と宿場町を楽しむ会を開催しました。富谷観光交流ステーションとみやとでは、シルバー人材センターの皆さんから富谷茶復活プロジェクトの紹介、

目に浮かぶのは旅人が
一息つき、茶を楽しむ光景

旧脇本陣の 氣仙屋さんで 富谷茶をいただく



そして旧脇本陣の氣仙屋さんでは富谷茶の振る舞いを行いました！総勢700名近くの来場者。お茶と宿場町、それはにぎわいの象徴なんですね。

伊達政宗公からのまちづくり＆お茶づくり。氣仙屋さんで堪能

富谷はお茶の流通の拠点もあり、産業振興の拠点でもありました。まさに政宗公の国造りにおいて重要な役割を果たしてきたのです。各地の検地帳を見ても茶畑が記載されているところから考えると、富谷茶は領内で広く栽培されていたようです。

そんなお茶の香り広がる昔の風情を追体験できた氣仙屋さんでのお茶の会。中庭ではNOP法人のSCRさんによる抹茶の提供、上の座敷では茶舗大竹園の大竹英次氏による富谷茶(煎茶と秋番茶)のお振る舞いがありました。

誇り高く、香り高く。この開宿400年の祝いの年を機に、富谷茶の復活とともに、しんまちから新たなまちづくりの輪が広がると思いますね。



奥州街道宿場町

宿場町から
新たな未来を

VOL.9

富谷
しんまち

かわら版





歴史文化グループから 地元偉人・内ヶ崎作三郎氏の 半生についてレクチャー

作三郎氏の生家だった場所で、宗教家・教育者・政治家など様々な顔を持つ、その半生を紹介。皆さん「こんなすごい人が地元に住んだ」と感動していました。



環境整備グループの 竹あかりワークショップ 夜の点灯式も感動!

もはやしんまちの顔となってきた「竹あかりワークショップ」を実施。夜には新作のダルマの竹あかりの点灯式もあり、イベントを盛り上げてくれました!



※グランドオープン日…令和3年4月17日(土)予定

来春オープン予定のとみやど。
一足早い「にぎわいのひととき」に
みんなの笑顔が輝いていました。



昨年しんまち撮影をしてくださった カメラマン浅田さんの ビデオレターに感涙

昨年しんまちカレンダーの撮影をしてくれた写真家浅田政志さんからうれしいビデオレター。映画『浅田家』で人気だけに「すごい!」と声があがってました。



各出店ブースも 試食に販売に大にぎわい。 オープンが待ち遠しい!

来春オープン予定のテナント出店者のお店が試食や販売、体験会を実施。飲食スペースも大盛り上がり。来年にはにぎわいの「とみやど」が実現するはずです!さうご期待!



シルバー人材センターさんから 富谷茶の紹介ブース 富谷茶の記念映像もお披露目

宿場町の誇りであり象徴である「富谷茶」復活プロジェクトを実施しているシルバー人材センターの皆さまから富谷茶の魅力を紹介。記念映像の出来もすごい!



しんまちのさまざまな話題を発信!
富谷しんまちの情報発信Webサイト
<https://shinmachi-tomiya.com>

